

2026 年 2 月 26 日

「第 23 回企業フィランソロピー大賞」を受賞 ～「境港市・伊平屋村（いへやそん）教育交流事業」を評価～

株式会社海産物のきむらや（鳥取県境港市渡町、代表取締役：木村美樹雄、以下「海産物のきむらや」）は、公益社団法人日本フィランソロピー協会が主催する「第 23 回企業フィランソロピー大賞」を受賞いたしました。

弊社の 30 年にわたる「境港市伊平屋村教育交流事業」において、地域の皆さまと共に取り組んだ活動が高く評価されました。なお、贈呈式は 2026 年 2 月 17 日（火）、東京都千代田区の如水会館にて執り行われ、当社代表の代表取締役 木村美樹雄、取締役会長 木村隆之、専務取締役 木村多賀子が出席し、受賞の栄誉を賜りました。



（写真左から）（公社）日本フィランソロピー協会 会長 浅野 史郎様、海産物のきむらや 専務取締役 木村 多賀子、取締役会長 木村 隆之、代表取締役 木村 美樹雄、日本フィランソロピー協会 理事長 高橋 陽子様

◆企業フィランソロピー大賞について

SDGs の達成に向けて自社の経営資源（人材・ノウハウ・技術・情報など）を有機的・持続的に活用した社会貢献を、公正で温もりと活力ある社会を次世代に伝えることを目的として、同協会が 2003 年に創設した表彰制度です。

「企業フィランソロピー大賞」関連ページ

<https://www.philanthropy.or.jp/project/award/>

◆「企業フィランソロピー大賞」受賞理由

対象活動：境港市・伊平屋村（いへやそん）教育交流事業

もずくなどの海産物の製造・販売を行なっている同社は、“食を通じていのちをはぐくむ”という企業理念のもと、「境港市・伊平屋村教育交流事業」を通じて、次世代育成に取り組んでいる。鳥取県境港市ともずくの産地である沖縄県伊平屋村の小学生が、互いの文化に触れ合い、平和について考え、郷土の魅力を再発見する教育交流事業は 1996 年開始、累計参加者は 900 人を超える。両地域の教育委員会、地域の団体、住民と連携し、同社は資金提供のほか、社員の引率参加、企画支援等を担っている。経営状態が順風でなかったときも変わることなく継続し、毎年 500 万円、累計支出額はおよそ 1 億 4,000 万円にのぼる。また、取引先と共に商品売上の一部を産地の海洋環境保全に役立てる基金を 3 件設立。中でも生協や漁協と共に対象商品の売上一点ごとに一定金額を積み立てる「久米島美ら海環境基金」（2014 年設立）の累計寄付金額は 1,000 万円を超える。2026 年、教育交流事業は 30 周年を迎える。過去の参加者が大人になり、卒業生がもずく生産者として同社を応援する、教育委員会の職員として再会するなど新たな関係が生まれている。地方中小企業が時に悩みながらも、自社の持ち味を生かし、地域と子どもの未来を創造する取り組みを地道にかつ各地に仲間を増やしつつ挑戦する経営姿勢は特筆に値する。企業フィランソロピー大賞として敬意を表したい。

◆評価された社会貢献活動

① 境港市伊平屋村教育交流事業（活動開始：1996 年）

1979 年（昭和 54 年）海産物のきむらやの木村隆之社長（現会長）は伊平屋島のもずくとの出会いをきっかけに、「もずくで通じて生まれた繋がりを子ども達の交流に発展させたい」と強い思いから「境港の子ども達に沖縄の綺麗な海を、伊平屋の子ども達に大山でスキー体験して欲しい。」と 1996 年（平成 8 年）に本事業が始まりました。本事業は、CSR 活動の一環として、海産物のきむらやが所在する鳥取県境港市と、主力商品「もずく」の産地である沖縄県伊平屋村の子どもたちが交流する取り組みです。

海産物のきむらやは、これまでに鳥取県境港市及び沖縄県伊平屋村の教育委員会に対し、費用や交流事業の支援を行ってきました。

1997 年 第 1 回ウインタースクール



主催：境港市教育委員会（サマースクール）

伊平屋村教育委員会(ウインタースクール)

協賛：株式会社海産物のきむらや

協力団体：鳥取県立境港総合技術高等学校（若鳥丸海洋練習船）

鳥取県セーリング連盟

鳥取県境港市食生活改善推進員

伊平屋村漁業協同組合

伊平屋村青年団協議会（エイサー団体）

若鳥丸海洋練習船（釣体験）



スキー体験(鳥取県大山)



エイサー体験



海産物のきむらや工場見学



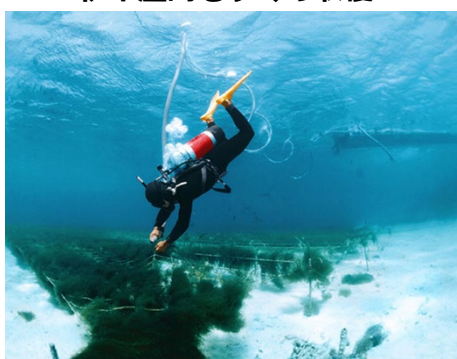
② 環境保護活動

美ら島応援もずくプロジェクト（活動開始 2010 年、累計寄付額 2,300 万円）

コープデリ生活協同組合連合会（1 都 7 県）は、1987 年から伊平屋島のもずくを販売しています。2010 年には「美ら島応援もずくプロジェクト」を開始し、もずくの売上の一部を島の自然環境保護活動に寄付しています。寄付金は、漂着ゴミの運搬・処理や砂地の浄化などに活用されています。

また、海産物のきむらやは、商品の製造や活動の支援を行っています。

伊平屋島もずくの収穫



ビーチクリーン活動



久米島美ら海環境基金（活動開始 2014 年、累計寄付額 1,000 万円）

「美しい海で育つ久米島のもずくを守る」ために、「久米島美ら海環境基金」を設立されました。この基金は久米島産のもずくを使用した商品の売上 1 点につき、大阪いずみ市民生協・わかやま市民生協で 1 円、久米島漁協が 1 円、海産物のきむらやが 1 円の合計 3 円を積み立てていきます。これらの資金は久米島町に寄付され、環境保全活動に役立てられています。



ベチバー植栽活動



サンゴ礁保全再生活動



コープしこく美ら島応援もずくプロジェクト（活動開始 2024 年、累計寄付額 83 万円）

「COOPLAN 沖縄味付太もずく」の産地である沖縄県伊平屋島は、リーフと呼ばれるサンゴ礁が広がる美しい海に囲まれています。この海域は良質でおいしいもずくの生育地として知られています。

近年、島には大量の漂着ごみが流れ込み、島全体で清掃活動が行われています。しかし、島内にゴミ処理施設がなく、漂着ごみを船で運び出すなど、大きな負担となっています。

このような状況を受けて、私たちは美しい自然を守るために、2024 年から「COOPLAN 沖縄味付太もずく」の商品の売上 1 点につき、コープえひめ・こうち生協・とくしま生協・コープかがわで 1 円、海産物のきむらやが 1 円の合計 2 円を積み立てていきます。これらの資金は伊平屋村に「もずく基金」として寄付し、海や砂浜などの自然環境を保護する活動に役立てる取り組みを行っています。



今後とも受賞を機に社会貢献活動を継続し、これからも持続可能な地域社会の発展に貢献してまいります。

【ニュースリリースに関するお問い合わせ】

株式会社海産物のきむらや

企画秘書室 渡 英子

E-mail : pr-kimuraya@mozuku-1ban.jp

TEL : 0859-45-6555 FAX 0859-45-6561